

ぐんぐん通信



地域支援センターぐんぐん
福島県立郡山支援学校内
第1号 令和2年5月11日

みなさんとともに

校長 齊藤 恵子



新型コロナウイルスがなければと・・・と思う毎日が続いていますが、学校のチューリップは今まさに満開を迎えています。

4月7日、学校は、始業式そして入学式を無事迎え、今年は、小学部16名、中学部22名、高等部19名の児童生徒が入学してきました。始業式でも入学式でも、同じように強く感じたことがあります。それは、期待感をもった子どもたち一人一人の「きらり」と輝く表情です。3月の初めから学校が休業となってしまったこともあるのでしょうか。学校が始まることを「うれしく」「楽しく」思っている様子が手に取るように分かり、とてもうれしく感じました。学校は、子どもたちにとっての学びの場です。「わかった!」「できた!」「もう一回!」を繰り返す中で、たくさんの学びを自分のものにしていきます。そして、その学びを地域の中で生かしていきます。

地域支援センター“ぐんぐん”は、今年、3年目を迎えました。“ぐんぐん”では、みなさんとともに、一緒に考え、一緒に歩みたいと考えております。そして、子どもたち一人一人が、期待感をもち自ら学ぶことができるよう環境を整えたいと考えております。いつでも、お気軽に、ご相談いただきたいと思います。

心に寄り添いながら

教育支援アドバイザー 高坂均

平成30年度より、県内すべての特別支援学校の本校内に「地域支援センター」が設置され、それぞれ1名ずつ教育支援アドバイザーが配置されました。

今年度、教育支援アドバイザーとして異動して参りました。福島県が進める「未来へつなぐ子育て・教育充実事業」を推進するために、保護者の皆様や学校等のサポートに努めていきたいと考えております。特別支援学校や教育委員会での勤務の経験をいかし、常に相手の

心に寄り添い「**おいあくま**」（おこるな、いばるな、あせるな、くさるな、まけるな）の精神で頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



編集後記 ～「おいあくま」、調べてみました～

今年度は新型コロナウイルスにより、先の見えない不安な日々が続いています。ぐんぐんでも、毎年行ってきた「キラキラ教室」が当面開催できない状況になってしまいました。

さて、教育支援アドバイザー高坂先生の原稿にある「**おいあくま**」ですが、戦国大名武田信玄で有名な甲斐の武田氏の軍学書「甲陽軍鑑」の言葉だそうです。こんな時期だからこそ、おこらず、あせらず、くさらず、まけずに、乗り切りたいものです。



パラリンピックを応援しよう!

～ボッチャ編～

神がかった投球に会場が沸く!

今回は、パラリンピック独自の競技

「ボッチャ」をご紹介します。



ボッチャは、1984年のニューヨーク・エイルズベリー大会において、パラリンピックで初めて公開され、1988年のソウル大会から正式競技になりました。日本代表チームは「**火ノ玉 JAPAN**」の愛称で呼ばれ、2016年のリオデジャネイロ大会では混合団体が銀メダルを獲得しています。

試合では、まず「ジャックボール」と呼ばれる白いボールを投げます。それから赤・青それぞれのチームが6球ずつ、ボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに「ジャックボール」に近づけることができたかを競います。障がいによっては足でボールをキックしたり、「ランプ」と呼ばれる滑り台のような投球補助具を使って転がしたりすることができます。ボッチャは、ルールが氷上で行われるカーリングに似ていることから「地上のカーリング」「床の上のカーリング」とも呼称されています。

